

第71回愛知県公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時

令和7年8月5日（火）午後2時から午後3時40分まで

2 場 所

愛知県三の丸庁舎 8階 802会議室

3 出席者

委員 4人

説明のために出席した者 12人

4 傍聴者

0名

5 議 題

- (1) 役員報酬規程の一部改正について
- (2) 2024年度業務実績に関する評価について
- (3) 第三期中期目標期間における業務実績に関する評価について

6 議事概要

【役員報酬規程の一部改正について】

- 「意見なし」とした。

【2024年度業務実績に関する評価について】

- 評価案を取りまとめて、次回の第72回評価委員会で決定することとした。

【第三期中期目標期間における業務実績に関する評価について】

- 評価案を取りまとめて、次回の第72回評価委員会で決定することとした。

7 会議録署名人

河辺委員

松本委員

【質疑】

(1) 役員報酬規程の一部改正について

○ 委員

今回の変更案については特にご意見なしということでよろしいでしょうか。
(意見なし)

(2) 2024年度業務実績に関する評価について

(3) 第三期中期目標期間における業務実績に関する評価について

○ 委員

資料2の30ページまでのところはいずれも数値目標が上回って達成されているということで、IV評価で全く問題ないかと思います。

問題があるのは31ページ以降、指標が未達成である場合になります。ここは事前の説明を受けた際にも申し上げたのですが、大変悩ましいところではありますけれども、この6年間の間に取組の内容を変えざるをえない、或いは実際に実施してみたところ見直すのが適切であるとなった場合には、指標が未達成であっても、計画を十分実施していると評価しても問題がないと思います。

ただ、その場合の書きぶりと言いましょうか、そこをもっと強調していただけだと、疑問なくIII評価だと言えるのではないかと思います。項番19に関しては、受入件数は4.1%減少したが、金額ベースでは増えているということで、件数も増えている間違いないIVというところ、件数で減少しているので数値目標の上では未達成と言わざるをえないが、十分取り組んでおりIIIと評価したということを強調してお書きいただいてもいいのかなと思います。と言いますのは、この委員会の中だけの問題ではなく、最終的には県議会にも提出されるものですし、そういう際にご議論がややこしくなるようなことがないようにしていただいた方がいいのではないかなど、それを感じました。

同様に項番28も、留学に関してはコロナの影響もあったので、そこで新たにフィリピンの大学のプログラムを実施した件をもっとお書きいただければと。

項番43のギャラリーのことは前回の議事録でも拝見しましたが、白河学長も、漫画やアニメなどの展覧会をやると、大変多くお客様が来るんだけれども、それが芸大の取り組むべき本来の姿かどうかを考え、改めて卒業生の作品に力を入れるようにした、つまり基本の、取り組む方針を根本的に見直した、その結果、1年目よりも上昇したとおっしゃっています。このような点を、強調してお書きいただくといいのではないかなどを感じました。

それからもう一つ、これは私の個人的な意見としてお聞きいただきたいのですが、本来は学長がおいでになるところで直接申し上げれば良いとは思いますが、以前から申し上げているのですが、芸大は科研費にどうしてもそぐわない面があります。前回の白河学長も、昔は科研費に芸術というような項目自体がなかったとおっしゃっておいででした。私も別の件で確認したのですが、東京藝大元学長の澤和樹さんが科研を取られたときに、確かに社会教育などの分野で取られておいででした。この方は有名なヴァイオリニストでいらっしゃいます。もしかしたら音楽教育のような分野にご関心があつて取り組まれているのかもしれません、無理やりにでも件数を上げなければならぬということで、前回白河学長もおっしゃっていたように、いささかこじつけるような形で申請されたのかもしれないなと感じております。もしそのようなことがあるのであれば、むしろ芸大の独自な視点から、科研ではないのだけれども、こういうことは評価の対象にならないだろうかということを、積極的にご提案いただきたいなと考えております。

と申しますのは、今年は県の選奨に選ばれた先生がおいでで、去年は確かに文科省の方の芸術選奨に選ばれた先生もおいででした。大変素晴らしいことだと思うのですが、こういうことは毎年度あるようなことではないですね。科研費のレベルとはぐっと高くなる話になります。或いは、絵画の方の安井賞だとか、青木賞だとかございますが、そういうものを取るというのは全国で1年に1人に留まります。音楽でも出光音楽賞などがありますが、受賞者は功成り名遂げた大先生のような方に限られてしまうかと思います。むしろそうではなくて、こういう取組を新しくして、その結果こういう高い評価を得たとか、展覧会なり音乐会なりにおいてになった方のアンケートのようなものでもご紹介いただければと思います。科研にはそぐわないけれども、このような試みに取り組み、その結果しかじかの成果を得たとご紹介いただければ、評価委員の側が判断する材料になろうかと思います。その材料をお示しいただかないと、どうしても科研の部分でしか評価のしようがなくなってしまいますので、ぜひ、とりくんでいただければと思います。

無理やりこじつけるような形で応募して採択されても、それは本来のそれぞれの先生方の活動分野とは違う形で、時間をとつて作文しているようなことにもなりかねません。それは本来の趣旨ではないだろうと思いますので、ぜひ積極的にいろいろご提案をいただきたいと存じます。余計なことも申しましたが、以上でございます。

○ 委員

前回の会議の時も同じような議論があつて、もう少し書き方を工夫すると

いう話もありました。ちなみにこの資料はどこまで公開されるのでしたか。

○ 事務局

次第にあります資料1～3は公開資料としてホームページに掲載されます。
参考資料は公開されておりません。

○ 委員

そういう意味では今ご意見いただいたように、みなさんこれを見るので、書きぶりは積極的にしていただくといい。以前に比べたらアピールいただいていると思いますが。

○ 委員

質問になりますが、指標というのがそれぞれの項目全体の評価と必ずしも合致していないくて、一部を評価しているというような指標にならざるをえないと思いますが、そういう前提でいいのですよね。項目に指標が関連しているのは当然ですけれども、ストレートにバチっとくる指標が出せるときもあれば、関連するけれどもこれだけではないよねという感じになるところと、両方が入っていると思うのですが、それはそれでいいのですよね。

○ 委員

なるべくいろんなアピールの方向でやっていくということでいいと思います。

○ 委員

指標が必ずしも全てではなく、それは一部の評価であって、評価全体で見ればやれていると、そういう共通認識でいいですよね。

○ 委員

そうです。数値目標は立てないといけないということでどこの大学さんも立てていて、そこに向かってやっていき、達成できないものもあるのは仕がないことかなと思います。

○ 委員

項番45について、評価Ⅲは妥当ということでいいのですが、様々な施設で美術作品を展示したり、演奏会を開催してみなさんへ聴いていただくということ以外に、Webのこれからの方についてのお考えが明確だといいと思ってい

ます。内容の充実や視認性の向上といった表現にとどまるのもやむをえないかもしれませんのが、他の芸術大学だけでなく色々リサーチしていただいて、どうやってみなさんが芸術のサイトにアクセスしてくるか、ヒットしてくるかということを研究していくというようなことも大事で、ⅢをⅣにするための強いメッセージがあると良いとの感想です。

アクセス数がすごく少ないと思います。愛知県立大学・芸術大学へのアクセスは、海外からはあまりないという話も以前から課題になっておりましたので、何かもっと魅力あるものにしていけると芸術の方にも繋がるでしょうし、芸術から入ってきて大学の魅力が分かっていただけるかもしれませんので、そのアピールをしっかりとしていくことを期待しております。

○ 大学法人

確実にフォロワーは囲いつつ、少しずつ増やしていきたいと思います。どこでヒットするか分からないので、ささいなことでも発信していきたい。

○ 委員

こういう世界はマーケティングのプロが競争して、どうやって見せるかという熾烈な戦いをしているのでなかなか難しくはありますが、芸術に関しては、素晴らしい芸術を展開すれば、また違う人たちが来てくれる、見てくれるのではないかと思います。積極的に色々チャレンジしていただきたいと思います。

○ 委員

他の芸術大学等もたぶん同じ苦労をされているんですよね。ベストプラクティスというか、上手くいっている方法や、これをやったけど上手くいかないねといった話を共有していただけるといい。

○ 大学法人

国公立5芸大で色々と情報交換・意見交換をしているんですけども、他の学校もやはり同じような悩みを抱えていて、いかに高校生に芸術の良さをアピールするかとか、かなり苦労されています。今はSNSを非常に重要視しているので、うちとしても若者・高校生に対してSNSをいかに活用して芸大の良さをアピールしていくか、考えるチームを立ち上げまして、ご指摘いただきましたようにリサーチしながら、これから第四期にやっていこうということで検討しているところですので、ご意見をいただいて有難いです。

- 委員
チームを立ち上げたことで、そこにフォーカスして、専任者としてしっかりと考
える専門家がいないとなかなか厳しいと思います。
- 大学法人
学内だけでは限界があるので、専門の方の意見も聞きながら、一方で高校生
など色々な人の意見も聞きながらやっていこうと思っています。
- 委員
この話も資料にはなかったので、そういうことも書いていただくといいの
ではという話ですね。
なんというか、そういうことはお金をかけないとだめですね。
- 委員
今、広告が一番投入されているのはネットですからね、テレビも完全に追い
抜いてしまいましたし。広告代理店の思う通り、良いようにやられてしまって
もというところもありますし、難しいところですね。
- 委員
品を保ちつつ、価値の分かる人にちゃんと見ていただきたい。
- 委員
東京藝大が2、30分くらいの動画を、各専門・専攻で、どんどん上げていま
すね。学長がそれぞれの専門を訪問して、主任の教員に話を聞くとか、レッス
ン風景だとか、創作風景をそのまま動画にして流すとか、そのようなものを幾
つか見たことがあります。このようなものが予備校からリンクされたりすると途端にアクセス数が増えていきます。
これは雑談のような話になってしまいますが、2、3か月前にABEMAニュース
というところで、音大は食えないという特集があって、音楽関係・芸大関係の
動画ではアクセス数がトップになったことがありました。ひろゆきという、2
ちゃんねるの創設者でしたか、あの方が「そもそも音大なんかに行って食える
と思ってるの？」などと発言して、音大関係のユーチューバーが一斉に反応し
て、音大や美術も含めて芸大というのはこういうものなんだという言い訳と
いうか、厳しさを言うようなことがありました。これで怖いのは、こういうこ
とに政治家が反応してしまうことです。食えないところにそんなに税金を投
入するよりも…と。それこそ外国人に金を使うより日本人に使えみたいな話

が力を持ってしまったのと同じように、もっと役に立つ分野に金をかけるべきだというような動きが一举に広がる可能性も否定できない。この前の参議院選挙で痛感いたしました。

そういうものを一つずつ相手にして言い訳をする必要はないですけれども、そんなことまで含めて、ネット対応は神経を使わないと、一步間違うと大炎上して思わぬ方向に行ってしまう可能性も高いなというのを、改めて感じました。

○ 委員

ネットは気をつけて使っていかないと、というところで、素人だけでやるより、お金はかかるけれども専門家を入れるというのは大事かなと思います。

資料2の方はこれでよろしかったでしょうか。最後の36ページのところに全体評価がありますが、これについてもよろしいですか。内容は何かこう、進化しているような内容になっているんですよね。毎年同じではなく変わっているというような。

○ 事務局

その時々の主要な内容を組み込んで、表現を整理したという形です。

○ 委員

新しく取り組んだ内容は入っているということで、分かりました。

○ 委員

些末なことですが、1行目の書き方で「〇〇していることは評価できる」というと、評価できないものが次に来るという感じに読めてしまうので、表現を検討してもいいのかなという気がします。個人の感覚なのでこのままでも結構ですけれども。

○ 委員

今までこういう書き方でしたか。

○ 委員

ずっとこうですね。どこかで変えればいいのかもしれません。

○ 委員

この評価委員会の報告は議会に対するもので、もちろん広くは県民に対す

るものですから、議会が承認した中期目標が確実に実施されている、或いはそれを上回って実施されているということを議会に報告するということが本旨であろうかと思いますので、こういう書き方になつていいのだろうと思いますけれども、委員のおっしゃる通り「実施しており評価できる」とかいつた方が一般的になじみやすい感覚はありますね。

○ 委員

過去にこういう表現がいいという意見が何かあったんでしょうね。

○ 事務局

過去の経緯は承知しておりますが、参考資料3に過去の全体評価の記載をまとめておりまして、概ね同じようになっております。

○ 委員

今回はこれでいきましょうか。

では、同じように資料3についてです。各項目について何かご意見はござりますか。

○ 委員

項目52についてですが、28.7%で指標をほぼ達成というような書き方がされているんですが、参考資料1によりますと、そもそも人事政策が変わって、固有職員の割合を増やすという方がまず重点が置かれて、この間に9名の職員が増えている。その結果、割合が下がってしまったということになるわけですね。であるならば、増える前の78名の中でこの研修をされた方々、派遣等に従事された経験をお持ちの方々の割合の数字を出していただけだと、おそらく30%を超えることになるのではないかと思うのですが。それであれば、評価Ⅲ以上としても理解できます。

その上で、この中期計画の過程で人事政策が見直されて、固有職員の増加の方にまず力を入れて、今度はその上で育成を行うようにしたためであるとストレートにお書きいただいてよいのではないかと思うのですが。

○ 大学法人

固有職員が増えたこともありますし、残念ながらせっかく派遣研修に出した職員がいろんな事情で他へ変わってしまったということもあったりして色々難しかったんですけども、行くこと自体が目的になっているのではないかという議論もありまして、2024年度は原点に立ち返って、居ながらに

して海外と交流できる、ベースとなる語学研修をしたりしました。他の機関で刺激を受けるというのもあるんだけれども、大学マネジメントみたいなどろでやる気のある職員が研修を受けたというところがありますので補足させていただきます。

○ 委員

人事政策というのは微妙な内容も含むところでございまして、すべて語ればいいというものではないかとも思います。ただ、数字がどうしても独り歩きしますので、それでしたら、この中期計画が始まった最初の年度の母数の中で、こういう研修を受けた人間の割合がこれだけ増加したと、例えばまず一つそれを出していただいて、同時に固有の職員の充実をまた別の形でお書きいただいてもいいのかなと思います。これはまた違う人事政策になりますので、混ぜて書いてしまうとかえって分かりにくくなってしまい、誤読されることが懸念されます。

○ 大学法人

順を追って、事実についてはこうだと整理したものを県庁へお送りさせていただいて、それでまた見ていただければ。

○ 委員

教員はあちこち行ったりすることがありますけれども、事務職員の方は狭い中で籠ってしまう傾向がありますので、特に公立大学は設置母体との関係のみになってしまふことが国立大学や私立大学と比べても多いかと思いますので、大変重要なことであろうと思います。なので、中期計画が始まる時点での母数に対してこれだけできたということを示すなどの工夫をしていただければいいと思います。

○ 委員

ちなみに、2019年度から2024年度にかけて、パーセンテージは結構変わっているのでしょうか。

○ 大学法人

パーセンテージは各年度で凸凹していますが、基本的には20%から一番多くて30%程度です。

- 委員
では今記載の数字と結局あまり変わらないわけですね。
- 大学法人
最初の78人というのを固定させていただいた上で、人の重複分は外して、退職者も含めて実人数で、他機関や海外へ行った人数は分かっていますので、何人というのを出させていただきます。
- 委員
なぜ申し上げたかと言うと、その母数ですと1名の増減だけで簡単にクリアできてしましますので、母数が9名増えたら、それは多少研修者を頑張って増やしても割合としては増えないと、素朴に読んだものですから、意識的に小さく数字をまとめる必要はないのかなと思った次第です。
- 大学法人
最高で22名ですので、78を分母にしても30%にはちょっと到達しないですけれども、一応、期首に何人いて、実人数として辞めていかれた方も含めて何人というのは、今手元にあるものではなくてきちんととした数字でご報告させていただきます。
- 委員
コロナ禍の話はおっしゃる通りなので、コロナ禍後の変化などもあった方が積極的ですよね。
- 大学法人
コロナ禍直後の取組ではないのですが、2024年から独自で研修を設けさせていただいたというのが一つアピールさせていただいているところでございます。
- 委員
最近の職員の方は最初からそこの職員になるのではなく、他の会社とか、他の業種に就かれてから入ってくる人が結構増えていて、研修へ行けと言っても、もう他のことを経験してきている人が意外と増えていますね。
- 大学法人
新卒採用もさせていただいておりますし、昨年度は4月1日でスタッフを十分

補充できていなかった部分もありますので、途中で採用試験をさせていただきました。今おっしゃられたように、他のところを経験してという方がほとんどです。あと新卒で採らせていただく部分につきましても、ある程度年齢の幅を設けているのがありますので、2、3年他を経験なさった方が手を挙げてこられたケースもあります。

○ 委員

そういう意味では30%は結構大変だと思うんですよ。希望を募ってやるとなかなかそとはならない。なので委員がおっしゃった見せ方とか、年度で良いところがあればいいし、伸びているならいいかなと思います。コロナだけのせいにするより、終わった後どうなんだとか、積極的な分析をされた方がいいのでは。

他はいかがでしょうか。

○ 委員

私が一番良くなつたなと思っていることですが、項目22は、最初の頃は会議をすることが目標だったという内容でしたが、最終結果を見ますと、愛知県の関連部署と意見交換会をし結果を出しており、手応えのある内容になっていると思います。同じように項目48も、県立大学・芸術大学の連携や、設置者である愛知県との連携を促進するため、定期的に情報交換を行うことが目的だった時期がありましたが、これも最終的にはスタートアップのシンポジウムを開催したり、具体的にいくつか結果が出ておりますので、そういう点では、これを機に集まって会議をするということは定例、当たり前のこととして、いろんなプロジェクトを作つてもらった上で、第四期に関してはもっと発展的、創造的で築き上げる視点をもつていただくといいと思います。

どうしても指標というと定量でないといけなくて、何回やったというのが指標として掲げられていましたが、そうではなくて会議をして何を生み出したのかというところにフォーカスできてきてるので、記載内容が練れてきた感じがします。

○ 委員

我々が概算要求するときに会議の回数と書くと、これはないだろうと言われますね。それはやれば済む話だろうと。

○ 大学法人

第四期の目標を立てるときにはそういうご意見をたくさんいただいていた

かと思います。回数もですが、実際にそれを使って何をやるのかという目標を立てさせていただいているかと思いますので、その通りにやっていきたいと思います。

○ 大学法人

回数だったところから出て行って、2大学の連携でこういう取組をする、地域の課題解決のためにこういう取組をするという形で、それぞれ独立していったという感じで、そういう意味ではいただいたご意見をふまえてきちんとできてきて、四期の方に向かっているのかなと思います。

○ 委員

回数であってもいいですけれど、今までだと絶対やらないよねというものの回数にしていただき、実質が動いていくといいと思います。

他はいかがでしょうか。よろしいようですので、全体評価を見ていただけますでしょうか。資料2の全体評価で挙がっている項目が必ずしも全部ここに入っているわけではないんですね。

○ 事務局

6年間の中から抜粋しています。

○ 委員

「評価できる」と「評価する」という書き方がありますが、過去から何か意味があるのでしたか。評価している主語は我々評価委員会ですよね。

○ 事務局

同じ述語が続くとバランスが悪いということで、言い回しをそのようにしているもので、深い意味があるものではありません。

○ 委員

2024年度にはアントレプレナーシップとか、いろんな連携をしているということとか、こども愛知芸大とかの取組が入っていますが、6年間で見るとそういうものは入らないということですね。

○ 事務局

三期を代表するものを挙げさせていただいた形です。

○ 大学法人

こども愛知芸大については2024年度が初めてなので、その年度しかやっていないというところはあると思います。アントレプレナーシップやスタートアップシンポジウムについては期の真ん中くらいからやらせていただいているものになります。

○ 委員

6年かけて、最後の2年とか1年で実って形になるというものがあるから、そういうものはあまり積極的に書かないのかと、ちょっとと思いました。

○ 委員

これも確かに以前も話題になったことがあったかと思いますけども、今回の案では、一つはいわゆる教養の授業、つまり県大・県立芸大の全学生が参加する授業の特色が一つと、それから研究部門で、この場合はコミュニティ通訳で一つ、それから芸大の方でやはり同様に、そして連携の部門でアントレプレナーシップといったような、そういうふうに挙げていただいたかと思います。

2019年頃には、かなりシンプルな書き方がされておりましたが、私は、この「県大世界あいち学」について、トップクラスの研究分野だけじゃなくて、県立大学に来た全学生が関わる、まさに県民のためのこういう教育をしているんだと大きく書いていただければということを申し上げてきた記憶がございます。

そういうことをも踏まえて、各分野で一つずつをピックアップしたということではないかと思います。あらゆるもの全部載せることもできないので、それもやむを得ないのかなど。

○ 委員

イメージとしては、立ち上がって複数年やった実績があるものを書いているというイメージですかね。全体評価だけ見た人からすると、何か今どきの言葉が入っていると、非常に多岐に渡ってやっているなというイメージが出てくるのではと思ったのですが、そういう統一感があるのであればいいと思います。

○ 委員

全体評価のコメントで、強調してほしいと思ったのは、努力するという表現ではなく戦略が必要だというふうに言った覚えがあります。情報発信と大学の知名度を上げるために戦略が必要じゃないかということで、ここで「戦略的に行い」としてので、入れてもらってよかったです。大学の運

當には少々刺激的で品のない言葉かもしれませんけれども、やはり戦略とか作戦というものが最初にあって、それをもとにみんなが一齊にベクトル合わせをして動いてもらうのが良いと思います。

○ 委員

ありがとうございます。大学が戦略という言葉を使っても全然問題ありません。むしろ各大学、ミッションとか、この大学はなんのためにあったんだっけということをもう一回見直して、それに合った計画を立てろというようなことが一世代前くらいにありましたので。

他にはよろしいでしょうか。それでは全体評価についても基本的にこれでよろしいというご意見だったかと思いますので、ありがとうございます。評価案を取りまとめていきたいと思いますので、法人の方はこれで退席いただくということで。

(法人退席)

○ 委員

では、2024年度の業務実績についての資料2に改めて何かご意見はございますか。基本的にはこの評価でよろしいということだと思いますが、みなさんがご意見が出たように、表現がもう少し前向きにできるものはした方がいいということで、以前に比べたら大分前向きに書いていただいたと思います。特に評価を変えるようなところはなかったかと思います。逆に上げるところもないですかね。

(異議なし)

○ 委員

各項目についても、全体評価についても適切に書いてあると思いますので、よろしいかと思います。これは大学間でのバランスもとっているんでしょうか。分量といいますか。

○ 事務局

そうです。大体同じ分量になっています。

○ 委員

ではよろしいですね。それでは第三期の業務実績についての資料3にご意見はございますか。先ほど委員からあったように、52番については、指標を達成できませんでしただけではなく、どれぐらい人数がいたかなど書いていただ

くと頑張った感じが出てくるのかなということで、そういうデータを少し加えていただけたらということでお願いしたいと思います。

最後に全体評価についてですが、これでよろしいかなというご意見だったので、よろしいですか。

(異議なし)

○ 委員

公立大学はやはりその土地にあって、県民の方にとっても普通にそこにある大学であり続けるというのも大事なことかと思います。県民の方にいつも目を向けてもらえる大学になってくれればというふうに思います。ぜひ積極的な姿勢でよろしくお願ひします。

それでは、一部修正してほしいという意見については事務局で対応していただき、確認が必要であれば個別に意見を伺い、案をメールでいただくということで、最終案は私と事務局に一任していただくという形にしたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

では今日1日ありがとうございました。意見を元に評価結果を取りまとめた後、法人への意見照会をしていただければと思います。次回は、8月の28日に第72回目の評価委員会を行いますので、法人からの意見も踏まえて評価を決定する予定でございますのでよろしくお願ひいたします。それから前回の評価委員会でもご説明のあった通り、次回は、第四期の中間目標期間の業務実績評価実施要領等についても審議しますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【その他】

○ 委員

予定していた本日の議題はすべて終了しました。何か全体を通してご意見はございますか。

○ 委員

ここ数年、人口が減少していく中で何とか繋ぎ止めようということで、これまで大学がなかったところに新たに大学を作る動きが盛んになってきております。ただ、そもそもとなかったところに、人口減の対策として作るわけなので、存続は大変厳しい。今、公立大は100を超えておりますが、今後10年で、改めて公立大学の存廃まで含めていろいろ議論が起きてくるかと思います。公立大学をめぐる風当たりも、一歩間違うとどこで何が起きるかわからないという危機感を持っております。委員のおっしゃったように、戦略的というのは、そう

いうことも念頭に置いたことではないかと思いますので、事務局でぜひ、そんなことも含めて、法人と両大学と情報交換をして、第四期計画を作っていただけるようにお願いをしたいと思います。もしかしたら、国公私立の中でも公立大学が一番厳しい冬の時代を迎えることになるのかもしれませんので、よろしくお願いいたします。

○ 委員

委員は私立もお詳しいと思いますが、私立はもっと厳しくないですか。

○ 委員

これはもうバッタバタとつぶれております。ただ、逆に言いますと、顧客は日本中におりますので、公立大学と比べるとかえって楽な面があるかもしれません。それから文科省などとの関係が国立大学に比べると私立の方が国との関係も弱いところがあります。最大のステークホルダーは学生と保護者ですので、むしろ県市町村、その設置母体との関係が一番厳しいのは公立大学ではないかと思います。だからこそ、知事が変わったり、議会の様子がちょっと変わると、大学のあり方もがらっと変わる。知事が変わって、それまでの運営方針が変わってしまったので、教員が一斉に逃げ出しているというような話も聞きます。一方で、もともとつぶれそうだった私立大学を公立化したところなどは、何かあるたびに県議会で大騒ぎになっているとも聞いています。愛知県はそういうことはないとは思いますけれども、この間の参議院選挙みたいなこともありますので、それこそ留学生を受け入れるなどの主張が突然力を持つかもしれません。

○ 委員

私がお世話になっている私立大学は、海外の大学が日本に誘致されると、優秀な人材を大分取られるのではないかと危機感をもっているということを聞いて、そこまでグローバルになってきているとすごく感じております。どこを目指していくのかというのを、公立といえども方針をしっかりとしていくかないといけないと思っております。偉そうなことを言いますけれども。

○ 委員

もう海外の大学と提携して、教育プランのところは海外に任せてという私立、公立も出てきています。たぶん今まで通りにはできない。先ほど委員が10年とおっしゃいましたが、たぶん10年は待てなくて、10年経つともう人数が急降下に入っていますので、手前の3年くらいに改革するかどうか。

○ 委員

あと3年ぐらいの間は18歳人口がちょっと小康状態なんですね。それがすぎると今度また一挙に雪崩を打って減少します。

○ 委員

ちょっと気になるのは、6年というのは結構長いんですよね。長いので、1回計画を立てるとそれに従ってって話になるけれども、もしあれだったら途中で少しプランを変えるくらいの軽快さがあってもいいのかなと正直思います。たぶんほとんどの大学が3年くらいで改革をしてくるので、ぜひ軽快にやっていきましょう。

○ 委員

どの大学もカリキュラムの見直しを4年間を待たないでやっていますよね。それはそれで、スタッフの一員としては、ますますめまぐるしく忙しくなり、困ったことではあるのですけども、そうせざるをえないことも理解はしています。

○ 事務局

めまぐるしく情勢は変わっていくので、それに着いていきながらというか、先んじないといけないですね。

○ 委員

そういうつもりで参りましょう。たぶん3年くらいで勝負所になると思います。もう国立も人を減らすというふうに舵切りをしましたので。

○ 事務局

危機感をもってやって参ります。

○ 委員

それでは、ありがとうございました。

以上

会議録署名人

会議録署名人